

様式第6号の7

学番市1万代高等学校

令和6年度

学校自己評価表(年間評価)

学校運営計画		
学校運営方針	(1) 全教職員が一丸となって、生徒の学力向上と進路実現を図り、部活動・学校行事の振興により活力のある学校を創造する。 (2) 国際理解教育・キャリア教育・ICT教育を推進し、特色ある学校づくりを推進する。 (3) 生徒の規範意識を醸成し、他を思いやる豊かな感性、たくましく生きる気力・体力を育成する。	
スクール・ミッション		
志を高く掲げ、多様な人々とのかかわりの中で豊かに学び、新たな時代を切り拓く生徒を育成する学校		
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	○ 社会性に富み、他と協調できる心豊かな人間性を身に付けた生徒 ○ 志を高く掲げ、たくましく生き抜く気力・体力を身に付けた生徒 ○ 社会の変化に対応できる能力と国際感覚を身に付けた生徒	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○ 国際理解教育、キャリア教育、ICT教育を推進し、特色ある教育活動に繋げる。 ○ 多様な進路に対応できる選択科目及び学校設定科目を開設する。 ○ 各教科・科目等において、基礎・基本を徹底するとともに探究的な学習を重視する。 ○ 基幹教科である数学、英語では、少人数授業や習熟度別授業を実施する。 ○ 普通科は2年次より進路希望に応じて「文系」と「理系」の2つの系列を開設する。 ○ 地域を題材にした探究的な学習を1年次より組織的・計画的に実施する。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○ 志を高く掲げ、努力を惜しまない生徒 ○ 様々なことにチャレンジし、自分を高める生徒 ○ 健康で明るく、他者を思いやり協調できる生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
成果 - 基本的な感染予防を継続するとともに、様々な工夫を凝らしながら、教職員が一丸となって組織的に適切な教育活動を実施した。 - 各種推進教育を継続して実施し、学校の特色化に繋げた。また、総合的な探究の時間では、地域との連携を深め、教科横断的・探究的な活動の充実と発展に繋げた。 - 入学者選抜では昨年度に引き続き、普通科・英語理数科ともに高い倍率となり、地域から期待が寄せられている。 課題 「豊かな人間性の育成と進路実現」を目指して - 生徒の第1志望の進路実現を目指す - 一人一人の生徒に対応したきめ細かな指導体制の確立 「成長を促す指導」等の「積極的な生徒指導」の徹底と規範意識の向上 - 各分掌間の連携による組織力の向上 - 特色ある教育活動の体系的推進と更なる充実	1 質の高い授業 - 特色あるカリキュラム・マネジメントの推進 - 主体的、協働的に学ぶ学習を発展させ、学ぶ意欲及び思考力・判断力・表現力を向上させる授業の推進 - 探究的な学習の充実 - ICT教育の推進 2 キャリア教育 - 進路目標の醸成と進路実現に繋がる、系統的なキャリア教育の展開 - 総合的な探究の時間による探究活動の推進 - 進路目標の設定と進路実現 3 生徒指導の推進 - 全教職員が一丸となった生徒指導の徹底 - 予防的な指導等の充実 - 互いを尊重し、協働する活動を通して規範意識を育成 4 特別支援教育の推進 - インクルーシブ教育の推進 - 校内支援体制の整備 - 関係機関との連携	- 新教育課程の適切な運用 - 観点別評価の効果的な運用 - アクティブラーニング型授業の推進 - ポートフォリオを活用した学習指導と進路指導の充実 - 総合的な探究の時間等の充実 - iPad及びGoogleWorkspaceを活用した授業研究 - キャリア教育の充実と推進 - 新潟地域魅力創造事業の活用 - 地域教育コーディネーターの活用 - 教科、学年、進路が連携した組織的な進路指導体制の確立 - 外部機関との協力体制の確立 - 挨拶の励行、正装の徹底、交通マナーの遵守など全職員による温度差のない生徒指導 - 豊かな心、自律の心を育てる指導 - いじめ等の早期発見と防止及び発生時の早期且つ組織的な対応 - 人権教育、同和教育の推進 - 通級指導体制の構築 - 個別の指導計画の作成 - 教育支援コーディネーターの活用 - SC及びSSWの活用 - 保護者との連携 - 教育相談の充実

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
教務部	・教育効果が最大に発揮される教育課程の編成・実施と年間月間計画の作成	・教育課程委員会と連携し、教育目標を達成するための教育課程の編成を行い、継続的にその有効性を検討する。	A	A	成果と課題 校務支援システム導入3年目になるが、まだ運用がうまくいかない場面が多くあった。効果的な活用を模索すると共に、今年度うまくいかなかったところを修正し、手順を見直して次年度に引き継ぎたい。 体験入学は、午前中の悪天候で、参加できない中学生もいたが、アンケート結果は「学校の様子がよく分かった」など好意的な意見が多かった。今年度から申し込みをGoogleフォームで行ったが、申し込みがうまくいかず、問い合わせの電話が非常に多く、集約作業が大変だった。申し込み後、確認のメールが中学校側に届くように設定して改善を図りたい。 今年度から55分授業6コマの時程となった。また、教育課程がすべて新課程となった。その運用の中で課題も出てきて、教育課程委員会を開き見直しを行った。DX事業の関係でも教育課程を見直さなければいけないこともあり、来年度も教育課程委員会で協議し、教育目標を達成するための教育課程の編成となるようにしたい。
		・教科書・準教科書・副教材の協議・申請手続きを滞りなく行う。	A		
		・各部署との連携を密にし、教育目標を達成するための計画を検討する。	B		
		・行事の適切な配置を継続的に検討する。	A		
	・保護者及び中学生等に対する積極的な広報活動・情報公開	・学校案内のデザインや内容を、本校の特色がより伝わるよう充実させる。	A	A	
		・学校案内を3,000部以上を配布し、学校の広報活動に努める。	A		
		・学校紹介プレゼンテーションファイルを作成し、広報活動に活かす。	A		
		・学校ウェブサイトの更新と保守管理を行い、教育活動の情報発信力を強化する。	A		
		・学校ウェブサイトのアクセス数を増やすため、多様な情報の発信を各部署に依頼し、こまめに更新をする。	B		
		・学校紹介動画の内容充実を図り、教科指導と教科外活動の両方の発信力を強化する。	A		
		・学校行事等を保護者対象に配信し、生徒の活動を紹介する。	A		
		・教育課程委員会・進路指導部と教務部の連携を密接にし、教育課程の検討を行う。	A		
	・担任向け履修指導説明会を開催し、共通理解を図る。	A			
	・生徒向け科目選択説明会を実施し、個別面談と保護者面談を通して進路希望との適合性を確認する。	A			
	・校務支援システムにおける円滑な業務遂行体制を整える。	B			
	・セキュリティの確認をこまめに行い、ダブルチェック体制を確立する。	A			
	・紙面とデジタルデータの管理を徹底する。	A			
	・校内ネットワーク等の活用および視聴覚情報機器の有効活用	・サーバーを管理運営し、定期的なバックアップを取り、不測の事態にも業務の停滞を回避できる体制を整える。	A	A	
		・年度当初にセキュリティポリシーと利用規則の徹底を図る。	A		
		・生徒向けネットワーク・情報機器の管理保守を行い、情報教育推進委員会と連携して、教育活動に有効な利用体制を構築する。	A		
		・教職員向け研修会等を通じ、視聴覚情報機器の有効活用を図る。	A		
		・視聴覚情報機器台帳を作成し、保守管理の徹底と効率化を図る。	A		
		・各種行事が円滑に運営されるよう、視聴覚情報機器の設置と運用を行う。	A		
		・備品の管理を徹底する。	A		
		・図書館における資料収集と環境整備	・各教科や学年部と情報交換しながら、資料収集する。		
	・図書委員や生徒の声を資料選定に生かす。	A			
	・様々な角度から資料を探し出せるよう、図書データを整備する。	A			
	・「図書館報」（年1回）、「図書館だより」を発行する。	A			
	・廊下の掲示板やマルチメディアコーナーを使って広報活動を行う。	A			
渉外部	・PTA活動の活性化	・年度始めのPTA組織作りにおける連絡調整体制を整える。	A	A	成果と課題 PTA役員との連絡調整体制を整え、各種活動を円滑に実施することができた。 今後はPTA役員会の出欠確認をペーパーレスで行えるようにしていきたい。
		・PTA役員と学校との連絡調整を円滑に行えるよう、担当の明確化を図る。	A		
	・後援会・同窓会の円滑な運営	・後援会・同窓会との連絡調整を円滑に行い、連携を図るため連絡リストを作成する。	A		
進路指導部	・生徒の実態に応じた活動を企画し、進路について考えさせ、次に向けた行動を設定させる。 ・進路に係る啓発活動や進路相談の機会の拡充を図り、進路目標の醸成に努める。 ・学習習慣の定着と学習機会の充実を図り、生徒の学力向上を支援する。	・大学調べ、講義体験等に係る活動とその振り返りを適切に実施する。	B	B	成果と課題 ・キャリア教育に係る活動が推進できるよう、組織面での改善に努めた。新潟医療福祉大との連携協定など、生徒にとって有益な活動を取り入れることに尽力できた。相談機能の充実をめざしていきたい。 ・進路についての探究活動の時間の確保が喫緊の課題である。総合探究部との連携を図り、適切な危機に活動ができるよう計画を立てる必要がある。 ・志望理由書作成については、2年次の「志望理由書ナビ」を中核に据えた流れを構築していく。 ・進路指導部で講演等を行う機会を増やし、タイミングに合った進路情報の提供に努めることができた。 ・スタサボの年2回実施で分野別学力の伸長を見る機会は増えたが、教科部での取り組みにつながったとは言い切れない。職員個々の問題とせず、学力向上策を学年教科部で取り組める体制が必要。 ・小論文指導については、講演会の時期を早めに決めて、組織的に対応できるように努めたい。
		・志望理由書作成などの指導を通して、自らの進路について考えを深めさせる。	A		
		・進路だよりや講演会等を通じて、タイミングにあった進路情報の提供に努める。	A		
		・「開かれた進路指導室」「的確な情報分析」に努め、進路相談等の充実を図る。	A		
		・スタディサポートの結果を分析し、生徒の学習指導および教科指導に生かす。	B		
		・模擬試験やGTEC、小論文模試を学年部・教科部と連携して効果的な実施をめざす。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価					
生徒指導部	・基本的生活習慣の確立 ・規範意識の向上および自律的態度の育成	・服装、挨拶の指導を徹底する。	A	A	成果と課題 ・校則見直し委員会を先導し、校則細則の見直しを行った。特に、服装に関して一律な指導から選択して自由に着こなせる多様性を重視した形に変更した。また、禁止事項を極力減らし、上意下達の従来の考え方から生徒自らが判断し選択でき、判断できる自己指導力の育成へ主眼を置いた。課題としては、見直しにあたり生徒指導部だけで動いているわけではなかったが、情報共有ができていなかった意見が多数上がり、これまでの経緯を作成することに時間と労力を割くことになった。本来、職員全体として考え進めていかなくてはいけない重要な作業ではあるが、固まるに従い、問題点や課題を指摘されたことを反省する。 ・週に一回の生徒指導部会を火曜の1限に開催できた。この時間があることで、学年での情報共有がスムーズに行うことができた。特に、校則見直しに関しては活発な議論を行い、それぞれの職員で分担して行うことができたことは成果である。 ・未だにSNSトラブルが減少することがなく、スマートフォンの使用規定の見直しなど、生徒が自ら学校とはどういう環境で何をすべきところなのかというものを自覚し、自ら判断し間違った使用をしないことを望みたい。ルールを厳罰化し、規律を保つ旧来の形に戻ることがないよう、指導の工夫を考えていきたい。 ・一律指導の困難さと、多様化してきた問題(カラーコンタクトの扱いや化粧の度合い等)一貫指導の必要性は理解できるが、学校としてどういった生徒を育成すべきか、どう指導していくかを考えていきたい。			
		・頭髮服装検査を不定期に実施する。	B					
		・朝読書指導と連携した各学年フロアでの規律指導を実施する。	A					
		・授業時間内外の規律指導を実施する。（時間のけじめ）	A					
		・校内巡視による規律指導を実施する。	B					
		・本校の品位を貶める行動への意識改革指導を実施する。（集会等による啓発）	A					
		・規律委員会の活動を活性化させ、生徒主体の規範意識向上を図る。	A					
		・薬物乱用防止講演会等を実施する。	A					
		・問題を抱えた生徒に対する支援体制を整備する	・問題や不安を抱えている生徒に対し、担任や関係各所と連携し、面談、カウンセラーの仲介、外部機関の紹介など早期対応を目指す。			A	A	
			・広報物を通じて、悩みがあった時には相談する場があることを知らせる。			A		
・支援を必要とする生徒に関する情報交換会を定期的に開催し、生徒に関する情報を共有し、支援体制を整備する。	A							
	・生徒の心身の健康をサポートする	・メンタルヘルス講座(思春期講座)を実施し、援助希求の大切さを理解させる。	A	A				
	・教員の資質向上を目指す	・生徒理解に関する教職員対象の講習会を開き、教育相談のスキルアップを図る。	A	A				
生徒会部	・生徒会活動を通じて、生徒の自主的かつ自立的な精神を涵養し、充実した学校生活の形成を図る	・生徒会役員の自主的な運営をサポートする。	A	A	成果と課題 【成果】 ・各行事を生徒会事務局(執行部)を中心に行事運営がスムーズにできた。 ・2年目となった市立3校合同教育フェスティバルでは生徒会事務局(執行部)で他校生徒会とともに協力し、アイデアを出し合いながら開催することができた。 【課題】 ・来年度の諸行事を今年度以上に充実したものにすることはもちろんであるが、内容の精選や開催時期についての見直しも必要と考えられる。 ・生徒会会計において上位大会基金や遠征費、登録料等の支出について整理して来年度を迎えたい。			
		・各委員会、部活動の活性化を図る。	A					
		・対面式、部活動紹介、生徒総会、壮行会等の主体的な運営を推進する。	A					
		・体育祭、文化祭、市立3校合同教育フェスティバル、芸術鑑賞会、球技大会を充実したものにする。	A					
		・生徒会新聞「水都」、機関誌「きざはし」の内容の充実に努める。	A					
保健部	・正しい知識と自己肯定感をもち、適切な意志決定や行動選択ができる生徒を育成する ・学校環境の整美、保全に努め、生徒の美化意識を向上させる	・生徒の実態から課題を明確化しそれに応じた保健教育を行う。（年2回の思春期講座を継続する）	A	A	成果と課題 【成果】 ・平時の活動を滞りなく実施することができた。 ・救急法講習では、部活動加入生徒を中心に職員・生徒と一緒に学ぶことができた。 ・生徒委員会活動はモップ交換や水都祭での催し物では生徒が責任感をもって、取り組む様子があった。 【課題】 ・モップ交換の際に、モップの所在と清掃分担に相違があり、煩瑣になった。整理して、来年度を迎えたい。			
		・生徒の健康の保持増進のために活用される保健室経営をする。	A					
		・保健委員会の活動を活性化し、健康に過ごすための企画・運営をしていく。	A					
		・健康に関する情報提供とその対応について生徒及び職員及び保護者に周知する。	A					
		・特別支援委員会・学校カウンセラー等と連携を図りながら健康相談に関する効果的な指導を目指す。養護教諭とカウンセラーは随時、情報を共有し必要に応じて部会を開催して全体での理解を深める。	A					
		・生徒の健康実態を把握し、感染症予防に努める。	A					
		・日々の清掃活動の重要性を確認すると共にゴミの分別と丁寧な清掃活動を行う。	A					
		・環境美化委員会の活動を通して生徒の美化意識の高揚を図る。	A					
		・2・3年次選択群の決定を5月中旬に終了し、5月下旬からの履修指導に備える。	A			A	A	成果と課題 多様な進学に対応するため、教育課程の見直しを継続的に行い、修正を行った。DX事業の導入もあり、様々な見直しが今後必要となるが、令和8年度入学生からの導入を目指して今後も教育課程委員会で話し合いを続ける。
		・適切な履修指導を行うため、担任団へ説明会を開き、指導内容の周知徹底を図る。	A					
教育課程委員会	・教育課程の適正な運用に努め、履修指導の方向を定める	・新教育課程が多様な進学に対応しているか、検討を図る。	A					
安全衛生委員会	・職場安全・衛生の維持・改善、職員の健康維持	・職場巡視、会議を通じて職場安全・衛生の維持・改善を行う。	B	B	成果と課題 職場巡視を第1回目を8月に実施し、第2回目を2月に実施予定である。職場の安全・衛生の維持管理を見直しすることができている。また、職員の健診等を円滑に実施することができた。今年度は、超過時間勤務が微増してきているので、職員の健康維持等の対策について来年度へ向けて検討していく。			
		・職員健診、ストレスチェックを円滑に実施し職場の状況把握と情報伝達を行う。	A					
人権同和教育推進委員会(兼男女平等教育推進委員会)	・生徒の人権意識を高めるため、具体的な指導方法の検討と指導機会の設定を行う ・性役割の意識が形成されないよう、学校教育全体を通じて人権尊重・男女平等の意識を生徒に醸成させ、男女相互の理解と協力について教育機会の充実を図る	・各種研修会への参加と教職員への研修内容を報告する。	A	A	成果と課題 ・生徒指導用教材「生きるV」を利用した学年一斉授業を実施することができた。また、職員が授業準備段階から学年会を開くなど、教材研究を熱心に協力しながらおこなった。 ・生徒指導用教材「生きるV」を本校用に教材として使用するようになった。 ・担当が研修を受けた内容を全職員に伝達研修という形で共有することができた。 ・生徒の発達段階に応じて、養護教諭と協力しながら性に関する「デートDV予防」「LGBTQ」についての思春期講座を実施した。 ・来年度は、教職員向けの研修では外部講師から講演してもらうように予算立てをしていく。			
		・教職員対象研修会を年1回実施する。	A					
		・生徒対象研修会を年1回実施する。	A					
		・生徒指導用教材の選定と活用法を検討する。	A					
		・総合的な探究の時間、LHR等を活用した継続的な指導を行う。	A					
		・教職員研修の充実を図る。	A					
		・生徒に対する指導法・指導機会・教材等を検討し、授業や総合的な探究の時間、LHRなどを活用して指導する。	A					
防災委員会	・避難訓練の充実及び暖房マニュアルの周知	・防火管理責任者の分担表作成	A	A	A	成果と課題 全校生徒が一斉にグラウンドにおいて避難訓練を行うことができ、避難にかかる時間も目標範囲内であった。毎年LHRの時間に実施しているが、教科の時間に行うことも検討する必要がある。		
		・避難訓練計画の立案及び実施	A					
		・冬季暖房等使用マニュアルの周知	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価											
総合的な探究の時間推進検討委員会	・「総合的な探究の時間」の活用法を確立し、各分掌との調整を図る	・令和6年度総合的な探究の時間の年間計画等を作成して周知し、全職員の協力体制のもとで指導、評価にあたれるようにする。	A	A	A	成果と課題								
		・探究活動の過程において他者と協働して課題を解決しようとしたり、生徒が進路に結びつけて考えたりできるよう指導、支援を行う。	B			各学年とも、すべての教員が生徒に関われるよう活動を展開することができた。生徒に身につけさせたい能力を明確にし、すべての教員がよりよく指導できるように、今後も引き続き評価方法や指導内容について検討していく必要がある。								
		・総合的な探究の時間の実施内容を振り返り、指導と評価の一体化を図る。	A											
特別支援委員会	・特別な配慮や支援を要する生徒に対する支援体制を整備する	・特別な配慮や支援を要する生徒に対し、担任や関係各所と連携し、面談、カウンセラーの仲介、外部機関の紹介など早期対応を目指す。	A	A	A	成果と課題								
		・相談支援通信の発行等を通し、悩みがあった時には相談する場があることを知らせる。	A			生徒指導部(教育相談)とともに、アンケートや生徒情報交換会実施し、職員間で生徒の問題や情報を共有できた。支援を要する生徒に対し、担任や学年等と連携し教育相談につなぐことができた。特別支援教育に関する理解をより深め、教育相談のスキルアップをさらに図っていきたい。								
		・支援を必要とする生徒に関する情報交換会を他の係と共同開催し、生徒に関する情報を共有し、支援体制を整備する。	A											
	・教員の資質向上を目指す	A												
情報教育推進委員会	・授業においてICT機器が円滑に活用されるように支援する。	・ICT機器の利活用について校内に情報発信を行い、ICTに関する相談先としての機能を果たす。	A	A	A	成果と課題								
		・iPad等の情報端末の管理、運営を支援し、授業での円滑な活用を推進する。	A			Classroomのクラス設定において、管理者を設けるようにすることで、管理を行えるようにした。生徒指導部協力の元、生徒iPadへの不正アプリダウンロードをチェックすることができ、抑止効果をもたらすことができた。次年度始まりにおいても、確認と注意喚起が必要。								
1 学年	〈学校生活〉 ・学校生活の充実を図る	・公共性を理解し、それを守ることによってお互いが快適な学校生活を送ることができるよう促すとともに、落ち着いて学習できる環境づくりに努める。	A	A	A	成果と課題								
		・授業への集中と、部活動等の活動への積極的な参加を促すとともに、体育祭、文化祭等の学校行事への参加や学級活動を通じて、社会性や友情を育み、仲間と協働しながら創造する喜びを体感させる。	A			【成果】 ・挨拶の励行や時間を守った行動など、集団として、基本的な生活習慣を身に付けることができた。 ・活気があり明るく素直な態度を尊重して、この良さをより一層伸ばすことができた。 ・学習における自身の課題を克服するために、放課後学習会等の機会を自らとらえ、積極的に学力向上に努力する姿が見られた。 ・各学校行事の活動をととして、経験するたびに集団生活に対する考え方を改め、集団としての意識や行動において確かな成長が見られた。 ・時間割に担任会議が設定されたことにより、定期的な学年会議を開催することができた。計画的に準備を進めて打合せを十分に行ってできた取組または目の前で起きている問題に対する対応への即決実行を実現した取組も多数あった。総じて学年として、統一した意識の元で活動ができてい								
		・清掃を確実に実施し、校舎の美化の意識を持たせるとともに、協力して活動することを経験させる。	A			る。 【課題】 ・学習への取組が主体的なものになっておらず、「与えられる」、「やらされる」という意識が全体としては感じられた。→授業改善と授業力の向上に取り組むことで、授業で子どもたちを引っ張ることができるように努める。 ・卒業後の進路に対する意識の醸成をさらに行う必要がある。それによって学習することの目的意識を向上させて、主体的な取組を増やす必要がある。→大学講義体験や大学生との交流、オープンキャンパスへの参加や講義動画の視聴などの取組を計画的につなげて指導の効果を上げる。								
	〈生活指導〉 ・基本的な生活習慣を確立させる	・挨拶の励行を促し、礼節を重んじる態度を培うとともに、欠席・遅刻・早退の数を極力少なくする。	A	A	A	A								
		・授業開始2分前の着席や集会時の5分前行動を徹底させるとともに、校則に則った適切な頭髪や制服の着用を繰り返し指導し、規範意識を育てる。	A											
	〈学習指導〉 ・学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る	・授業を大切にし、集中して取り組む姿勢を身に付けさせるとともに、学級指導や講演会等を通して、学習に主体的に取り組むことの必要性を自覚させ、学習に対して自走できる生徒を育成する。	A	A	A			A						
		・日頃の予習・復習や土曜講習、長期休業中の講習などを通じて、主体的な学習習慣を育み、希望する進路を実現できる学力を身に付けさせる。	B											
	〈進路指導〉 ・自己に対する理解を深め、将来への展望を持たせる	・総合的な探究の時間における探究活動を通じて学びの記録を蓄積し、自己のキャリアや進路についての意識を高め、自らの将来を自ら切り拓くことのできるたくましい生徒を育成する。	A	A	A					A				
		・生徒との面談を通じて生徒理解に努め、生徒の職業や学問についての理解を深めながら、2年次に向けて適切な科目選択ができるよう指導する。	A											
	〈広報活動〉 ・保護者への情報提供を充実させる	・PTA総会、保護者懇談会、進路講演会、学年便り、万代高校ホームページ等により、学校状況や進路等に関する情報の提供を行う。	A	A	A							A		
			A											
	2 学年	〈学校生活〉 ・学校生活の充実を図る	・公共性を理解し、それを守ることによってお互いが快適な学校生活を送ることができるよう促すとともに、落ち着いて学習できる環境づくりに努める。	B	A									A
・授業への集中と、部活動等の活動への積極的な参加を促すとともに、体育祭、文化祭等の学校行事への参加や学級活動を通じて、社会性や友情を育み、仲間と協働しながら創造する喜びを体感させる。			A	【成果】 ・入学以来様々な働きかけを通して生徒の心を耕すことに取り組んできたことが少しずつ身を結びつつあることが実感される。特に12月に入り、進路実現に向けた意識の高まりが多く学年集団全体として感じられるようになった。今後、個々の学習への取組の充実に伴ってさらに成果が出てくることを期待したい。 ・修学旅行では、ほとんどの生徒が時間を意識した行動をすることができており、円滑な団体行動を可能にした。学校生活でもその姿を期待したい。 【課題】 ・基本的な生活習慣、特に身だしなみに対する考え方が自分本位なものになっている生徒が散見され、今後も個別指導、全体指導を継続的に行う必要がある。 ・学年全体の学習への意識が高まったときに、その流れに乗れない生徒が出てくることが予想される。誰も取り残さないことを大前提に、学年生徒全員の支援をしていくことを学年職員全員で確認したい。 ・9月～12月は学年だよりの発行がなかった。そのぶん進路だよりをととして、積極的に情報の発信と進路実現に向けた意識の向上と実行の大切さを担当から積極的に働きかけた。										
・清掃を確実に実施し、校舎の美化の意識を持たせるとともに、協力して活動することを経験させる。			A											
〈生活指導〉 ・基本的な生活習慣を確立させる		・気持ちのよいさわやかな挨拶を自ら自然にできるよう、職員が率先していつでも、どの生徒にも挨拶をし、コミュニケーションを図る。	A	B	B									A
		・時間を守ること、身だしなみを整えることの大切さを納得を伴って行動に移せるよう働きかけ、規範意識を育てる。	B											
〈学習指導〉 ・学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る		・授業を大切にし、集中して取り組む姿勢を身に付けさせるとともに、学級指導や講演会等を通して、学習に主体的に取り組むことの必要性を自覚させ、学習に対して自走できる生徒を育成する。	A	A	A	A								
		・日頃の予習・復習や講習などを通じて、主体的な学習習慣を育み、希望する進路を実現できる学力を身に付けさせる。	A											
〈進路指導〉 ・自己に対する理解を深め、将来への展望を持たせる		・総合的な探究の時間における探究活動を通じて学びの記録を蓄積し、自己のキャリアや進路についての意識を高め、自らの将来を自ら切り拓くことのできるたくましい生徒を育成する。	B	A	A			A						
		・生徒との面談を通じて生徒理解に努め、生徒の職業や学問についての理解を深めながら、3年次に向けて適切な科目選択ができるよう指導する。	A											
〈広報活動〉 ・保護者への情報提供を充実させる		・PTA総会、保護者懇談会、進路講演会、学年便り、万代高校ホームページ等により、学校状況や進路等に関する情報の提供を行う。	A	A	A					A				
			A											

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			
3 学年	〈学校生活〉 ・学校生活を充実させ、全員の卒業を目指す	・責任感のある成熟した個人としての意識を涵養する。	A	A	成果と課題 最上級生としての自覚が多少なりとも芽生え、部活動や体育祭でリーダーシップを発揮してくれた。部活動引退・体育祭後の受験等に向けた学習中心の生活への移行も比較的スムーズに進めることが出来た。模擬試験、夏期講習、日帰り学習合宿、生徒との個別面談、三者面談、進学講演会、面接・小論文個別指導等、慌ただしい日々が続いたが、学級担任中心に学年団職員が適宜対応してくれたし、学校全体で様々な支援を提供してもらった。また、生徒達もそれに応えてくれた。時間厳守や服装・頭髪などに関する規範遵守の徹底にやや難があったことは否めない。また、特編授業実施前頃から遅刻・欠席の増加が目立つ生徒もいた、という残念な状況もあった。押し並べて振り返ると、目標を達成したということでA評価の判断を下した。	
		・最上級生として学校生活の様々な場面でリーダーシップを発揮させる。全員で協力し体育祭を成功させる。	A			
		・周囲への思いやりや配慮を育むよう自覚を促し、働きかける。	A			
	〈生徒指導〉 ・基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る	・日々の働きかけを通して時間厳守を意識させ、日々の学習に集中できる基本的生活習慣を身につけさせる。	B	B		
		・制服の適切な着用等を朝学習時や授業時、LHR時などを通じて繰り返し指導し、規範意識を身につけさせる。	B			
	〈進路指導〉 ・進路実現が可能な学力が身につくよう指導する ・一人一人の進路実現を、学年団で連携して支援する	・受験に対応した平常授業、講習、個別指導を実施し、個々の生徒のニーズに的確に対応するよう努める。	A	A		
		・大学への進学希望者に対し、模試等の結果を踏まえ適切かつ広い視野を持った進路選択のための情報提供をし、希望する進路実現を図る。大学進学希望者の現役大学合格率90％以上を目指す。	A			
		・年間を通じて個別面談を行い、一人一人の進路希望を把握し、より良い進路選択ができるよう学年団で協力して生徒の進路実現を目指す。	A			
		・時期に応じた適切な情報提供と、最後まで諦めさせない指導で、達成感を持たせる進路指導を行う。	A			
		・職業意識や社会人としての意識をふまえて自分の将来を自分の口で語れるようにキャリア教育をすすめる。	A			
	〈広報活動〉 ・適切な情報提供に努める	・保護者懇談会、進路講演会、進路便り・学年便り等により、学校運営や進路に関する情報の提供を行う。	A	A		
		・進学情報や就職情報、学校生活全般に関わる情報を教室掲示やiPad等を通じてタイムリーに提供する。	A			
	国語	・国語に対する関心と理解を深めるとともに、基礎学力を定着させ応用力を錬成する	・授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	A		A
・予習、復習を習慣づける。			B			
・長期休業中や週末の課題に対してしっかりと取り組ませる。			B			
・各種講習や特編授業を通して、問題を解く力を身につけさせる。			A			
・模擬試験に向けた演習とその解説を行う。			A			
地歴・公民	・学習習慣の定着を図り、基礎学力を充実させる ・進路実現のための学力伸長に努力する	・質の高い授業研究と改善に努め、日々の授業をわかりやすいものにする。	A	A	成果と課題 単元のとまりを意識した構造的な授業開発に努め、基礎学力の向上を図った。補習や特編授業を効果的に実施し、生徒の学力伸長に寄与することができた。より効果的な評価の在り様について研究していく必要がある。	
		・生徒の思考力が深まるような教材を精選し、学力と思考力の向上に役立てる。	B			
		・補習や特編授業などを通じて、大学進学への学力を伸長させる。	A			
		・模擬試験の対策・演習を行い、その解法を充実させる。	A			
		・新課程の観点別評価方法を確立する。	B			
数学	・学習習慣と基礎学力の定着を図る ・進路実現のための実践力を養う	・数学的思考力・判断力・表現力を養う授業を展開するため、授業の研究、改善に努める。	A	A	成果と課題 授業や課題学習、講習を通して、基礎学力の向上と定着を図った。また、デジタル教科書や教材を利用して、生徒の興味関心を引き出した。今後は、共通テストに対応できる力をどうつけていけるかが課題である。	
		・予習、復習を習慣づける。	B			
		・週課題等適切な課題を課し、点検する。	A			
		・3年生の特編授業を充実させる。	A			
理科	・進路実現のための基礎学力の向上と科学的思考力をもつ生徒の育成	・実験観察やICT活用で充実した授業を展開する。	A	A	成果と課題 授業内の限られた時間ではあったが、実験や観察を行うことで、生徒が実際に現象を目にする機会を作ることができた。また、サイエンスキャンプにて先進の研究に触れることで、学習意欲を高め、本校での探究活動や大学入学後の研究について考える機会を作ることができた。一方で、生徒に論理的に考える力が十分に備わっていないという課題が残っている。	
		・外部講座等の案内や参加斡旋、サイエンスキャンプを通して、理系分野の現状と課題への興味関心や理解を深め、学習意欲の向上を図る。	A			
保体	・健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる	・質の高い授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	A	A	成果と課題 各学年の単元における授業・評価・改善のプロセスを体系化し、生徒が主体性を持ち進んで保健体育の学習に取り組むことができるよう日々の授業運営を行った。体育ではICTを活用し、自身の運動を撮影し、手本と比較するなどして技能分析を行う活動も取り入れた。他にも、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、ロイノートを用いて、単元の練習計画を作成し、振り返りを行うなど、主体的・対話的な学びの実現に向けた授業展開も行うことができた。保健では、学習が実際の生活場面や将来に結びついていることを前提とし、学びが自身の生き方に直結していることを確認しながら授業を進めることができた。今年度の成果を踏まえ、生徒が一層保健体育の学習に関心を持ち、進んで学習に取り組むことができるよう工夫と改善を図っていく。	
		・運動の実践を通し知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことを理解させる。	A			
		・自ら運動の計画・実践が行え、運動の楽しさを導き出す能力を育てると共に、公正、協力、責任などに対する意識を高め、健康、安全を確保し、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	A			
		・個人及び社会生活における健康、安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	B			
芸術	・芸術の幅広い活動を通して、音楽・美術・書道における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。	・授業研究と改善に努め、質の高い授業を充実させる。	A	A	成果と課題 (成果) 授業を充実させるため、タブレット端末を利用して、題材のねらいに応じた適切な資料や課題を提示したり、生徒が活動の様子を振り返ることができるようにしたりした。芸術総合では3科で意見を出しながらそれぞれの特徴を生かした授業を行い、合同発表では生徒が学んだことを発揮できた。評価についても3科で話し合い、Ⅰ期とⅡ期の評価の内容を確認できた。 (課題) 評価内容の設定をこれからも考えていく。指導と評価の一体化をより充実できるよう、今後も評価内容を明らかにしながらより良い授業へつなげる。	
		・見方・考え方を働かせるための教材・題材の工夫をする。	A			
		・教科の特質を理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けさせる。	A			
		・創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わう活動を入れる。	A			
		・鑑賞の能力を高め、生活や社会の中の芸術や芸術文化への理解を深めさせる。	A			
			A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価			
英語	・基礎学力をつけ進路希望実現を目指す	・質の高い授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	A	A	A	成果と課題 (成果) 各学年ごとに年度当初の授業計画に基づいて授業を展開し、生徒の実態に合わせて進度や活動の調整を行うことができている。 英語学習に対する動機づけとして活用している外部検定試験では、GTECで2学年、3学年ともに前年次と比較して特に「読む」技能で全国平均以上の伸び率が見られる。英語検定については、受験者数が多数あり、英語検定協会から団体奨励賞が授与された。 (課題) 中学での既習事項の徹底については、年間指導計画に入れるなど、今後検討したい。
		・中学既習事項を徹底する。 (小学校既習単語600～700語、中学既習単語1,600～1,800語、文法事項を用いた表現力の養成)	B			
		・各種課題により基礎学力をつける。 (週課題、長期休業課題、授業時の小テスト、朝学習等)	A			
		・模試結果を分析し、授業に活かすとともに各種講習を通じて実践力をつける。 (土曜講習、春期・夏期講習、平日講習、模擬試験の活用等)	A			
	・英語学習に対する動機づけを高め英語力の向上につなげる	・各種スピーチコンテスト等への参加、各種国際交流行事への参加、ALTの活用を行う。	A	A		
		・外部試験の活用による英語力向上を図る。 (実用英語技能検定、GTEC、TOEIC Bridge等)	A			
		・卒業時まで実用英語技能検定2級以上の実力を養成することを目標とする。	A			
家庭科	・生活に関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させる	・質の高い授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	B	A	A	成果と課題 より質の高い深い学びの実現に向けて授業改善を行っている。ICTを活用しながら学習活動をすすめ、単元ごとに確認テストを実施し、基礎的な知識・技術の定着を図った。学んだ知識・技術を自分の生活や地域社会のためにいかす力をさらに向上させられるよう工夫していきたい。
		・日常生活に必要な、衣食住や法律、消費者問題、環境問題などの知識を学び、自分の生活を考えさせる。	A			
		・実験実習を通して基本的な技術を習得し、日々の生活に生かす力をつけさせる。	A			
	・家庭生活や地域の向上を図る能力と実践的な態度を育てる	・自分の生活を見直し改善する実践を通して、自立して生活するための意識を養う。	A	B		
		・地域社会や環境を見つめ、社会の向上に貢献する意識・態度を育てる。	B			
情報	・情報を適切に扱うための基礎的な知識と技能を習得し、自分と他者とを効果的につなぐ社会的知性を高め、データやロジックに基づく科学的かつ実践的思考能力を養う	・質の高い授業研究と改善に努め、授業を充実させる。	A	A	A	成果と課題 共通テストの必須科目であることを意識した授業内容を実施することができた。既習事項を定着させるために、出題範囲をランダムで毎日小テストを実施し、知識の定着を図った。また、プログラミングにおいては、課題を設定してグループ活動で解決する場を設け、アルゴリズムを理解してプログラムで実現する技能を身に付けさせた。12月で教科書の内容を終わらせ、演習問題に取り組む時間を確保することができたが、ワード・エクセル・パワーポイント等のソフトウェアの活用に対する時間の確保が難しかった。
		・情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、現代社会で必要とされる調和的・自律的デジタルシティズンシップの醸成につながるように、議論テーマや課題を設定する。	A			
		・実習を通してプログラミングや暗号通信・データ分析手法を習得させ、目標達成/問題解決手段としての合理的なアルゴリズム思考方法が身につくようにする。	A			
		・ワード・エクセル・パワーポイント等の基本的なソフトウェアを適切に活用し情報を収集・処理・表現できるようにし、科学的探究に役立つ力が育つように工夫する。	B			
成 果	すべての年次で、新教育課程となった。生徒の第1志望の進路実現については、概ね達成できた。また、今年度から55分6限授業を実施し、放課後の時間にゆとりができた。一人一人の生徒に対応したきめ細やかな指導や各分掌間の連携による組織力の向上に有効であった。次年度以降も、その活用について「個別最適な学び」及び「協働的な学び」、生徒の「自己調整力の向上」等の観点から、さらに有益な時間となるよう、見直しを図っていく必要がある。		総合評価			A